

令和4年決算特別委員会・工業用水道事業会計 開催状況（企業局所管）

開催年月日 令和4年11月7日
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員
 答弁者 公営企業管理者、企業局次長、
 工業用水道課長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 工業用水道事業会計について</p> <p>(菊地委員) 次に、工業用水道事業についてであります。</p> <p>(一) 長期借入金と利息の現状について</p> <p>(菊地委員) 水道事業について、これまで長年にわたって多額の一般会計繰入金、長期借入金の投入に一貫して指摘し、反対をしましてまいりました。昨年度までの苫小牧工水、石狩工水の長期借入額と返済額はそれぞれいくらか伺います。</p> <p>(二) 事業計画の現況について</p> <p>(菊地委員) いまだに、石狩工水の返済が行われていないということは大きな問題です。経営戦略期間の2年目となる昨年度の計画の遂行状況について、財政計画では、石狩湾新港水道事業は令和7年に一般会計からの借入が不要になるという計画ですが、2年目を終えた時点で、契約水量目標の達成状況はどのようになっているのか、お伺いします。</p>	<p>(工業用水道課長) 一般会計からの長期借入金についてでございますが、苫小牧工水では、平成9年度から17年度までの間に76億2千万円を借り入れ、令和3年度は元金5千万円を返済しておりまして、これまでの返済額は、元金が71億6千万円、利息が約1千万円となっております。</p> <p>また、石狩工水では、平成6年度から令和3年度まで54億1千万円を借り入れ、令和3年度は返済を行っておりませんが、これまでの返済額は、元金が12億4千万円となっております。</p> <p>(工業用水道課長) 石狩工水の契約率についてでございますが、石狩工水では、物流センターを稼働した事業者との新たな給水契約の締結に努めるなどし、令和3年度末の契約水量が日量で3千883トンになりまたことから、給水能力の日量1万2千トンに対する、契約率は32%となりまして、経営戦略に掲げた31%の目標は達成しているところでございます。</p> <p>また、今年度は、バイオマス発電所の本格運転などによる契約水量の増加によりまして、石狩工水の契約率は52%となる見通しでございます。</p> <p>企業局といたしましては、安定的な経営に向けて、経営戦略で掲げた目標の達成はもとより、その持続が重要と考えてございまして、今後とも関係部局と連携を図りながら、こうした観点に立って、更なる需要の拡大などにも努めてまいりたいと考えてございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 石狩工水事業の見通しについて</p> <p>(菊地委員)</p> <p>昨年度までは、契約水量の目標を達成してきているとのことです。令和7年度で一般会計からの借入金を不要とするためには、52%の契約率が必要とされていますが、本年2月からはじまったロシアのウクライナ侵攻の影響はなかったのか。</p> <p>年度終了時点での見通しについて、見直しなど検討は行ったのか伺います。</p>	<p>(工業用水道課長)</p> <p>石狩工水の収支見通しについてでございますが、石狩工水の経営は、ウクライナにおける事象発生以前に、食品関連の物流センターの開業やバイオマス発電所の本格運転などから、経営戦略に掲げた契約率の目標を達成いたしまして、収益の改善が図られているところでございますが、昨今の国際社会情勢の不安定化などによります燃油や資材の高騰により、工事費などが上昇しておりますほか、受水企業はもとより、施設の管理運営を受託しております事業者の業務にも支障が生じるなど、収益に影響が及ぶ可能性も懸念されるところでございます。</p> <p>このため企業局といたしましては、不測の事態に備え、維持費の節約や工事内容の見直しを行っておりまして、管理運営を受託している事業者とも協議し、今後の物価上昇や電気料金の改定を注視しながら、引き続き、経費の抑制などに不断に取り組みまして、経営に支障が生じないよう努めてまいりたいと考えております。</p>
<p>(四) 石狩工水事業の検討について</p> <p>(菊地委員)</p> <p>経営戦略によれば、2社の契約によって、52%～56%にまで到達することとなっています。それまでに、室蘭工水のように既存の契約者が水量を大きく減らすなど、こういった不確定要素も考えられるのではないかと。そうした要素の検討は行ってこられたのか伺います。</p>	<p>(工業用水道課長)</p> <p>石狩工水に係る受水企業の動向についてでございますが、企業局では、道の企業誘致部局をはじめ、石狩市や関係機関と情報共有を図っておりますほか、受水企業への訪問や管理運営の受託事業者を通じまして、不断に需要動向の把握に努めながら、必要な対応について検討を行っているところでございます。</p> <p>ご指摘のありました室蘭工水では、令和2年度に受水企業から、市場環境の急変によりまして事業内容の再編が避けられず、契約水量を見直したいとの申し入れがございまして減量を受け入れましたが、いずれにいたしましても、石狩工水の受水企業におきましては、現在のところ、撤退ですとか大幅な減量といった相談を受けている状況にはないところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(五) 長期借入金の返済について</p> <p>(菊地委員) 計画通りにいっているのであれば、将来に向けた返済について具体的計画を作成し、放置されている現状を変えていく必要があるのではないかと考えます。以前に議論をした際には、収支状況を見極めながら、関係部局との協議を踏まえて適切に対応する予定としていましたが、どのような議論を行ってきたのかお伺いいたします。</p> <p>(六) 石狩工水の経営見通しについて</p> <p>(菊地委員) 石狩工水は他の工水に比べて契約率は著しく低い状況が続いています。 そして本来は独立採算制であるにも関わらず、依然として一般会計から長期借入金などの支援を受けていることは、公営企業としては非常に問題があると考えます。石狩工水の健全化はほど遠いと思いますが、今後の石狩工水の経営の見通しと、経営戦略期間中にどのように対応しようとしているのか見解を伺います。</p> <p>【指摘】 (菊地委員) 更なる経営改善に努めることは当然であります。長期借入に依存しない経営の健全化は更に必要であることを改めて指摘しまして、質問とさせていただきます。</p>	<p>(企業局次長) 長期借入金の返済についてでございますが、これまで石狩工水は、当初見込んでいました食品関連企業の立地が進展しない一方、水の利用が少ない物流関連企業の進出が多いことなどから、工業用水道の需要が伸び悩み、営業運転資金や施設改良などに要する資金の不足が生じ、引き続き一般会計からの長期借入金で補填してきたところでございます。</p> <p>その一方で近年、脱炭素化に向けた地域の動きなども踏まえ、企業局といたしましては、関係部局と連携して、立地が進展しております再生可能エネルギー関連企業などにターゲットを重点化して、更なる需要開拓に努めますほか、経費の抑制に不断に取り組むなど、収支の改善を図ってきたところであり、令和7年度には営業運転資金の不足に対する一般会計からの借入金が不要となる見込みである旨を協議してきたが、社会経済情勢が急変し、先行きに不透明さが増しており、返済方法などについては、さらに関係部局と協議していく考えでございます。</p> <p>(公営企業管理長) 石狩工水の経営についてでございますが、石狩工水は、当初見込んでいた業種の立地が進まず、給水能力の縮小によりスケールメリットが働きにくい施設規模となったことから、これまで赤字が継続し、運転資金などの不足を一般会計からの長期借入金で補填するなど、厳しい経営状況が続いているものと認識してございます。</p> <p>一方で、近年は、バイオマス発電所などの本格運転の動きもあり、給水収益が着実に増加しており、今後も、効率的な事業運営に努めることで、令和7年度には、営業運転資金の不足に対する一般会計からの借入金が不要となり、返済が可能となる見込みでございます。</p> <p>その一方で、ウクライナ情勢や円安など、社会経済情勢の急変から不確定要素も増す中、企業局といたしましては、今後とも、安全・安心で安価な工水を供給できますよう、施設の耐震化や計画的な改修に努めますほか、企業誘致部局との連携を強化しながら、新たな需要として期待される再生可能エネルギー関連企業などに需要開拓のターゲットを重点化するとともに、支出の抑制に不断に取り組むなどして、経営戦略期間中の更なる経営改善に努めてまいります。</p>